

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

2年 看護科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

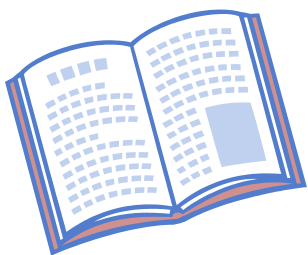
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

看護科

◎科の目標

- ・高校3年間と専攻科2年間を合わせた5年一貫教育による看護師の養成を目指します。
- ・「基礎看護」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「成人看護」「看護臨地実習」等の看護科専門科目を学習します。

◎資格取得、進路

- ・日本赤十字社救急法救護員修了証
- ・本校専攻科、大学などへの進学

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
1年	現代の国語		言語文化		公共		数学Ⅰ			生物基礎		化学基礎		体育		芸術Ⅰ		英語コミュニケーションⅠ			家庭基礎		基礎看護			人体の構造と機能			と疾病の成り立ち 回復の促進		看護情報		L H R
2年	文学国語		地理総合		数学A		物理基礎	生物基礎	化学		体育	英語コミュニケーションⅡ		論理・表現Ⅰ		基礎看護				造人体の機能		の促進	疾病の成り立ちと回復		社会保険制度と健康支援	成人看護	老年看護		看護臨地実習		L H R		
3年	文学国語		歴史総合		化学		物理基礎	体育			英語コミュニケーションⅡ		基礎看護		の促進		疾病の成り立ちと回復		成人看護		小児看護	母性看護	在宅看護		保健統計		看護臨地実習					L H R	

教科 国語

科目 文学国語

対象 2年生 看護科

単位 3

主な授業形態 座学

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。 ○他の考え（作品の主題や筆者の考え）と自分の考えを比較検討し、新しい考えや発想を生み出せる。(読む) ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○読み手が理解しやすく、場に応じた表現ができる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。 ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。 ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容をある程度解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。 ○言葉を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「文学国語」（東京書籍）

副教材 「学習課題ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	●随筆「光の窓」等 ●小説「山月記」等
2 学期	●詩歌： 詩 「永訣の朝」等 ●小説「こころ」等
3 学期	●詩歌：短歌「硝子の駒…」等 ●小説「あの朝」等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	世界の地域的特徴を、自らの生活や日本と比較することができる。		
	○世界の地域的特徴を自らの生活や、日本と比較したり、結びつけながら深く理解している。 ○主題図やグラフ・表などを自らの力で正確に読み取ることができる。 ○自らの力で効果的に主題図やグラフ・表を表現できる。 ○学びを深めるために必要な情報に気づき、それを自ら収取できる。	○論理的に討論や議論をすることができる。 ○主題図・グラフなどを用いて効果的に自分の考えを表現できる。 ○多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分の考えを持つことができる。 ○自分の考えを文章で論理的かつ確に相手に伝えることができる。	○日常生活や他教科で学んでいることと結びつけることができる。 ○常に創意工夫し、課題を解決しようとする。 ○自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的で、より深く学び続けようとしている。
成長のプロセス	世界の地域的特徴を、日本と比較することができる。		
	○世界の地域的特徴を日本と結びつけながら理解している。 ○主題図やグラフ・表などを自らの力で読み取ることができる。 ○自らの力で主題図やグラフ・表を表現できる。 ○学びを深めるためには新しい情報が必要なことに気づくことができる。	○自らの言葉で討論や議論をすることができる。 ○主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。 ○教師の必要最小限の助力によって多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分なりの考えを持つことができる。 ○自分の考えを文章で相手に伝えることができる。	○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的で、学び続けようとしている。

観点別：A

ジャンプ

評価：5



観点別：B

ステップ

評価：4

 観点別：C ホ ツ プ 評定：3	世界と自らの生活や日本とのつながりを理解することができる。		
	○世界の地域的特徴について基礎的・基本的な内容を理解している。 ○教師等の助力があれば主題図やグラフ・表などに含まれている地理的情報を読み取ることができる。 ○教師等の助力があれば主題図やグラフ・表を表現できる。 ○教師等の助力があれば、学びをさらに深めるためには、新しい情報が必要なことに気づくことができる。	○教師等の助言があれば、討論や議論をすることができる。 ○教師等による個別の助言があれば、主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。 ○教師等による個別の助力があれば、深く考察をしたり、自分なりの考えを持つことができる。 ○教師等の助力があれば文章で自分の考えを相手に伝えることができる。	○基礎的・基本的な地理的知識や技術、考察力を身につけようとしている。 ○学習内容をさらに理解するために学び方を改善しようとする。 ○教師の助力があれば進路実現に向け、学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新地理総合」（帝国書院） 「新詳高等地図」（帝国書院）
 副教材 「新地理総合ノート」（帝国書院）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地図上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活
2 学期	4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題
3 学期	6節 都市・居住問題 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にし、板書された事柄だけでなく、先生の補足説明も書く習慣を身に付けるようにする。
- ・主題図の作成などの作業には丁寧に取り組むようにする。
- ・普段から地図帳に目を通し、的確な世界地図を思い描けるようにしておく。
- ・普段から新聞等に目を通し、国際社会の動向を的確に掴んでおく。
- ・地図やグラフ、表などの資料から論理的に考察する習慣を身に付けるようにする。
- ・自ら地理的な課題を見つけ、自分の考えをまとめ、発表できるようにしておく。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランス良く身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

- (1) 場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識・技能)
- (2) 図形の構成要素間に関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。(思考力・判断力・表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	○十分に数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記などを理解し、基礎な知識を身に付けている。 ○教科書と副教材の基本的な内容をほとんど理解している。	○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○筋道をたてて考える力・自分の言葉でわかりやすく表現する力をかなり付けている。	○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○課題等、やるべき事を、期限までにほとんど行っている。
ステップ	○おおよそ数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記などを理解し、基礎な知識を身に付けている。 ○教科書と副教材の基本的な内容をおおよそ理解している。	○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○筋道をたてて考える力・自分の言葉でわかりやすく表現する力をおおよそ付けようとしている。	○おおよそ問題解決の過程を振り返って考察しようとしている。 ○課題等、やるべき事を、期限までにおおよそ行っている。
ホップ	○ある程度、数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記などを理解し、基礎な知識を身に付けている。 ○教科書と副教材の基本的な内容をある程度理解している。	○ある程度、数理的に考察する力を付けている。 ○筋道をたてて考える力・自分の言葉でわかりやすく表現する力をある程度付けている。	○ある程度、問題解決の過程を振り返って考察しようとしている。 ○課題等、やるべき事を、期限までに程良く行っている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学A」 数研出版
副教材 改訂版3 T R I A L 数学A 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
2学期	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第2章 図形の性質 第1節 平面図形（三角形の辺の比、外心・内心・重心、チェバ・メネラウスの定理） 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
3学期	3学期 第2章 図形の性質 第1節 平面図形（円に内接する四角形、円と直線、2つの円） 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第2節 空間図形（直線と平面、空間図形と多面体） 空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題	・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を深く理解し、知識を身に付けており、日常生活の中で活用することができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても説明することができる。	○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
	ステップ	○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けており、教師等による最小限の助力で日常生活と関連付けることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。	○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。 “
		○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作	○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を	○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。 ○自分の学び方を振り返り、改

ホ ッ プ	などを，教師等による最小限の助力で行うことができる。	行うことができる。 ○学習内容について，教師等による解説や助力を頼りに，観察，実験結果を考察し，規則性を見いだしたり，既知の事柄や原理・法則などを基に，新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど，科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で，形式に沿った表現ができる。	善すべき点について考えようとする。 ○課題や提出物などを，期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を，板書だけでなく，教師や他の生徒の発言，自分の考えなどをノートに記録し，授業から多くの情報を得ようとする。 ”
-------------	----------------------------	---	---

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 新物理基礎」 第一学習社
副教材 「新課程版 ネオパルノート 物理基礎」 第一学習社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動
2 学期	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則
3 学期	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第3節 仕事と力学的エネルギー

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・ 授業を大切にし、積極的に取り組み、復習・定期考査に役立つ丁寧なノート作成を心がけること。
- ・ 復習として、問題集等を利用し、疑問点，理解できない部分は、積極的に質問すること。
- ・ しっかりと自分の意見を発表したり、他人の意見を聞いたりすること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題	・ ノート ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。また、看護を学習する上で必要な生物の知識、特に人体に関する基礎知識を重点的に習得することによって、人体や生命現象への関心を持ち、看護の知識・技能を深める。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての基本的な概念について深く理解し、自然の物事・現象を、科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。	○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
ステップ	○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての基本的な概念について深く理解し、科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。	○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。



ホ ッ プ

○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての知識を身につけている。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。	○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。	○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。 ○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。 ○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。
---	--	---

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 新生物基礎」 （第一学習社）

副教材 「新課程版 標準セミナーノート 生物基礎」 （第一学習社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	1 学期 生命現象と物質 ・細胞と分子 ・遺伝情報の発現
2 学期	2 学期 生殖と発生 ・核相と染色体 ・減数分裂と有性生殖 ・配偶子の形成
3 学期	3 学期 生殖と発生 ・染色体と遺伝 ・突然変異

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・ 授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・ 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2 2 1 生物の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

物質の状態や物質変化、物質の性質に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質の状態や物質変化、物質の性質について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)

(3) 物質の状態や物質変化、物質の性質に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○物質の状態や物質変化、物質の性質に関する概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。	○物質の状態や物質変化、物質の性質について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的、かつ効果的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
成長のプロセス	ステップ	ステップ	ステップ
ステップ	○物質の状態や物質変化、物質の性質に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。	○物質の状態や物質変化、物質の性質について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。
ホップ	○物質の状態や物質変化、物質の性質に関する基本的な概念や原理・法則について理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。	○物質の状態や物質変化、物質の性質について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。	○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。 ○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。

ホ ッ プ		○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。	○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。
-------------	--	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「化学」 （数研出版）

副教材 「リード light ノート」 （数研出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学 期	第1編 物質の状態 第1章 物質の固体 第2章 物質の状態 第3章 気体 第4章 溶液 第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー
2 学 期	第2編 物質の変化（続き） 第2章 電池と電気分解 第3章 化学反応の速さとしくみ 第4章 化学平衡 第3編 無機物質 第1章 非金属元素
3 学 期	第3編 無機物質 第2章 金属元素（I）-典型元素-

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。
- ・ 授業を大切にしながら積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・ 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 材 料	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題	・ ノート ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題 ・ 自主学習プリント
重 み づ け	2	2	1
	看護師に必要な基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目 標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○各種目の高度な技を身に付けたり、記録の更新に挑戦したり、仲間に感動を与えられる表現ができる。 ○ゲームのルールや役割に応じた練習方法を工夫し、全員で楽しむためのルールの調整ができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。
ステップ	○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を込めて表現したりすることができる。 ○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。



ホップ

○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。
○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。

○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。
○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。

○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。
○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」 （大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」 （大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・体づくり運動 - 選択① 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道
2 学期	・体づくり運動 ・体育理論 - 選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道 ・持久走
3 学期	・体づくり運動 ・持久走 - 選択③ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・スキルテスト ・ルールテスト ・体育理論テスト	・振り返りシート	・振り返りシート、感想
重みづけ	2 : 1 : 1		
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○登場した英単語や文法事項を場面や状況に応じて正しく使用することができる。 ○積極的に発音や音読に取り組む、正しい発音やアクセントを身につけており、間違いがあれば気付いて修正することができる。	○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて正しく読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを正しく書くことができる。	○自ら興味関心を持って、題材となっているテーマについて調べたり、自らと関連付けて考察したりすることができる。 ○積極的に学んだことを発表しようとしたり、自ら相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ステップ ○登場した英単語や文法事項を、例文等を参考にして目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、積極的に発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけることができる。	○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の指示があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを書くことができる。	○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことを、興味関心を持って考察したり、自らの話題として深めたりすることができる。 ○教員の指示があれば、学んだことを発表したり、相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ホップ ○多少の誤りはあるが、登場した英単語や文法事項を目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけようとしている。	○多少の誤りはあるが、学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の支援があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて簡単な文を書くことができる。	○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことについて調べたり、自らの話題として考えたりしようとしている。 ○学んだことを相手に伝えたり、考察を共有しようとしたりする姿勢がみられる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「Power On English Communication Ⅱ」（東京書籍）

副教材 「チャンクで英単語 Standard」（三省堂）、「BIG DIPPER 高校英語」（数研出版）

「WORKBOOK Power On English Communication Ⅱ」（東京書籍）

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	Lesson 1 Play me, I' m Yours ・ストリートピアノについてのテレビレポート（助動詞＋動詞の原形，受け身，S+V[be動詞以外]+C） Lesson 2 Ethical Fashion ・現代のファッション業界についてのニュース記事。ファストファッションの問題点やエシカルファッションについて考える。（S+V+O+C [形容詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V [知覚] +O+C [現在分詞，原形不定詞]） Lesson 3 One for All, All for One ・ラグビー選手のリーチ・マイケル選手へのインタビュー（現在完了形，過去完了形，仮定法過去の if 節） Lesson 4 Vending Machines ・日本の自動販売機，海外の自動販売機についてのオンライン記事。（関係代名詞（主格），関係代名詞の非制限用法，関係代名詞（目的格））
2 学期	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue ・ユニバーサルデザインのフォント，ブレイルノイエとその開発者の高橋鴻介氏へのインタビューについての雑誌記事（助動詞＋受け身，S+V+C [分詞]，S+V+O [if 節] ,It seems [appears] +that 節） Lesson 6 New Banknotes ・2024 年に発行される新紙幣にまつわる話やキャッシュレス化についてのオンライン記事（It+is [was] +said+that 節，形式目的語 it と that 節，形式目的語 it と to 不定詞，助動詞＋have＋過去分詞） Lesson 7 Some Secrets about Colors ・色が私たちに与える影響や色のもつ心理的效果についての論説文（関係代名詞（所有格），同格を表す接続詞 that, 前置詞＋関係代名詞，関係副詞 where の非制限用法） Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem ・小田兼利博士が開発した納豆パウダーの誕生秘話と世界へ広がる様子についての論説文（強調構文，強調の助動詞 do, 直前の文を先行詞とする関係代名詞 which, to+have+過去分詞）
3 学期	Lesson 9 Flying after Her Dreams ・アメリカで黒人女性初のパイロットとなったベシー・コールマンの伝記（譲歩を表す副詞節，no matter how [where, when]（※要修正反映），仮定法過去完了，分詞構文（過去分詞）） Lesson 10 To Work or Not to Work?: Humans and Robot ・日本が誇るロボットやロボットの労働などについての論説文（過去完了進行形，be+to 不定詞，未来完了形，insist など+that+S+V [動詞の原形]） *実際の授業は種々の都合によりこの通りに行われないことがある。

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題 ・授業における発表や成果物
比重	2	2	1
まとめ	英語学習の基礎となる「知識・技能」、「思考・判断・表現力」の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○学んだ知識を用いて提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現を短い文や句を使って運用できる。 ○自分の考えや気持ちを話す、書くなどして伝える基本的技能を身につけている。	○場面や状況を理解し、絵や地図のような視覚的補助や接続詞等の補助を使って提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現が適切にできる。 ○助言や勧誘内容を理解し簡単な語彙を使ってそれに応える自分の考えや気持ちを詳しく伝え合っている。	○自身の活動や日常生活、状況を主体的に考えながら、積極的に活動に取り組もうとしている。 ○様々な補助を使い、基礎的な語彙や簡単な文を使って相手と自分の考えを詳しく伝え合おうとしている。
ステップ	○多少の誤りはあるが、学んだ知識を用いて提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現を短い文や句を使って運用できる。 ○自分の考えや気持ちを話す、書くなどして伝える基本的技能を一部身につけている。	○場面や状況を理解し、絵や地図のような視覚的補助や接続詞等の補助を使って提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現ができる。 ○助言や勧誘内容を理解し簡単な語彙を使ってそれに応える自分の考えや気持ちを伝え合っている。	○自身の活動や日常生活、状況を主体的に考えながら、活動に取り組もうとしている。 ○様々な補助を使い、基礎的な語彙や簡単な文を使って相手と自分の考えを伝え合おうとしている。
ホップ	○学んだ知識を用いて提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現を短い文や句を使って多少の誤りがあるものの運用できる。 ○自分の考えや気持ちを話す、書くなどして伝える基本的技能をおおむね身につけている。	○場面や状況を理解し、絵や地図のような視覚的補助や接続詞等の補助を使って提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現をしようとしている。 ○助言や勧誘内容を理解し簡単な語彙を使ってそれに応える自分の考えや気持ちをある程度表現できる。	○自身の活動や日常生活、状況を考えながら、活動に取り組もうとしている。 ○様々な補助を使い、基礎的な語彙や簡単な文を使って相手と自分の考えを何とか伝え合おうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MY WAY Logic and Expression」 （三省堂）
副教材 「BIG DIPPER 高校英語」 （数研出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	Lesson 1 Let' s talk about Ourselves ・ 現在形（Be 動詞）（一般動詞） Lesson 2 School Life ・ 過去形（be 動詞、一般動詞）、現在進行形、過去進行形 Lesson 3 The Arts ・ 未来表現、基本時制のまとめ
2 学期	Lesson 4 Food and Culture ・ 現在完了形 Lesson 5 Welcome to Our Town ・ 助動詞、受動態 Lesson 6 Traveling Abroad ・ 不定詞
3 学期	Lesson 7 Sports ・ 動名詞、分詞の後置修飾、分詞構文 Lesson 8 Everyday Technology ・ 比較

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・ 文や文型、文法事項、語や連語の知識を整理、活用し、初級レベルの英作文に取り組む。
- ・ 様々な場面にふさわしい表現ができるように、簡単な英作文に取り組む。
- ・ 基本的な表現を口頭で再生し、その表現を使いながら身につけて短い発話や会話に取り組む。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト ・ レポート（振り返りプリント） ・ インタビューテスト	・ 定期考査 ・ レポート（振り返りプリント） ・ インタビューテスト	・ ノート ・ レポート（振り返りプリント） ・ 提出物 ・ 長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	論理・表現の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)

(2) 看護に関する基礎的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力, 判断力, 表現力)

(3) 基礎看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○日常生活の援助及び診療に伴う援助に関する知識を習得している ○看護の問題点を理解し問題解決するための知識を習得している。	○職業倫理を踏まえ、合理的に解決する力を身につけている。 ○他教科と関連付けながら看護の根拠を考える力を身につけている。
	ステップ	○習得した知識と技術を適切に活用できるようにしている ○日常生活の援助及び診療に伴う援助における看護の課題解決に主体的に取り組むことができる。	○看護の意義・看護の役割と機能・看護の対象について根拠となる法令や理論を理解している。 ○対象者の状態に応じた日常生活の援助方法を習得している。
	ホップ	○看護に対する多様な課題を発見し、表現することができる。	○看護の社会的な役割や機能とそれに伴う責任を歴史的な経緯を含めて理解している。 ○協働する専門職・看護における倫理・コミュニケーション・安全管理について理解している。 ○感染予防について理解している。 ○日常生活の援助について自らの生活と結び付けながら理解している。 ○フィジカルアセスメントについて理解している。 ○救命救急処置について理解している。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「基礎看護」文部科学省

副教材 「系統看護学講座 専門1基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ」医学書院 「系統看護学講座 専門1基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ」「看護が見える Vol. 1. 基礎看護技術」「看護が見える Vol. 2 臨床看護技術」「看護が見える Vol. 3 フィジカルアセスメント」メディックメディア、
「実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド」照林社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1学期	単元名：看護の共通技術 （1）フィジカルアセスメント（身体計測、身体機能検査、肺活量を含む） 単元名：診療に伴う援助 （1）診察・検査・処置（看護者の役割を含む）	単元名：診療に伴う援助 （1）呼吸・循環・体温調整（酸素吸入・ネブライザー吸入・吸引・電法を含む）
2学期	単元名：看護の共通技術 （1）看護過程（ヘンダーソン）	単元名：看護の共通技術 （1）感染予防（無菌操作・ガウンテクニックを含む） 単元名：診療に伴う援助 （1）与薬（経口・外用） （2）創傷管理（褥瘡の処置を含む）
3学期	単元名：診療に伴う援助 （1）救急救命処置（赤十字救急法） ※包帯法	単元名：日常生活の援助 （1）排泄の援助（浣腸） 単元名：診療に伴う援助 （1）与薬（注射を含む）

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・（予習）教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・（授業）積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に先生に質問する。あるいは、休み時間・放課後などを利用して質問するなど早めに解決する。
- ・（復習）授業内容の範囲について、教科書を読み返し、辞書を引くことを習慣化する。提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・指定の技術についてはチェックリストを用いて反復練習をし、技術チェックを受ける。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・定期考査 ・小テスト ・看護技術テスト	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ※技術日誌	・出席状況 ・授業態度 ・グループワークでの取り組み ・振り返りシート、感想 ・課題の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の基礎的な技術や思考を学ぶ科目です。看護臨地実習の学習の基礎となる基本的な知識・技術の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重複して成績をつけます。		

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、人体の構造と機能に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人体の構造と機能について体系的・系統的に理解する。(知識及び技術)
- (2) 人体の構造と機能に関する生活行動や健康の基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力, 判断力, 表現力)
- (3) 人体の構造と機能について、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

		知識及び技術	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○人体の構造と機能を関連させ、疾病の予防や早期発見につながることを理解できる。	○人体の構造と機能を関連させ、疾病の予防や早期発見、健康の保持増進に関する考察ができる。	○人体の構造と機能についてよりよい看護実践を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的に取り組むことができる。
	ステップ	○人体の構造と機能を関連させ、生体の恒常性について理解することができる。	○人体の構造と機能を関連させ、生体の恒常性と健康について考えることができる	○人体の構造と機能に関連させ、生体の恒常性と健康とのについて考え、生活行動や健康の基本的な課題を発見することができる。
	ホップ	○人体の構造と機能を関連させ、生体の防御機構の仕組みについて理解ができる。	○人体の構造と機能を関連させ、生体の防御機構と健康との関連について考えることができる。	○人体の構造と機能を関連させ、生体の防御機構と健康について考え、生活行動や健康の基本的な課題を発見することができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」（医学書院）
「看護学生のための解剖生理よくわかる BOOK」（メヂカルフレンド社）
系統看護学講座 専門基礎分野 「微生物学」（医学書院）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	単元名：体液の調節と尿の生成 単元名：情報の受容と処理（脳神経） 単元名：生殖の発生と老化のしくみ ※医療新聞作成：医療・看護に関係する興味関心のある事柄を、各自新聞にまとめる。
2 学期	単元名：感染と免疫編（外部講師：微生物学） 第1章 病原微生物 第2章 感染と人体の防御機構 第3章 滅菌と消毒 第4章 感染症診断 のための検査 第5章 各種の病原微生物の特徴 第6章 感染症の予防と治療
3 学期	単元名：情報の受容と処理（眼・耳） 単元名：内臓機能の調節（内分泌）

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・（予習）教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・（授業）積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に先生に質問する。あるいは、休み時間・放課後などを利用して質問するなど早めに解決する。
- ・（復習）授業内容の範囲について、教科書を読み返し、辞書を引くことを習慣化する。提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物	・ 出席状況 ・ 授業態度 ・ グループワークでの取り組み ・ 課題等の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

科目 疾病の成り立ち
と回復の促進

対象 2年生 看護科

単位

3

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、疾病の成り立ちと回復の促進に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解するようにする。(知識及び技術)
- (2) 疾病の成り立ちと回復の促進に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 疾病の成り立ちと回復の促進について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○疾病の原因や基本的な病因より課題を発見し、生体の回復を促す方法について自分の考えを文章で表現することができる。 ○教師などの助言があれば、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的な思考で解決する方法を表現することができる。	○他教科で学ぶ医学看護の専門的知識と結びつけることができる。 ○常に創意工夫し、課題を解決しようとする。 ○看護職として働くことを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○よりよい看護の実践を目指して自ら学び、社会の変化に対応した生活の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
	ステップ	○教師などの助言があれば、疾病の原因の発生、生体の回復過程、基本的な病因の機序を図示することができる。 ○教師などの助言があれば、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的な思考で討議・議論することができる。	○医学看護専門用語や技術・考察力を日常生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○学習態度が主体的・協働的に取り組む態度で学び続けようとしている。
	ホップ	○教科書の医学看護専門用語を正確に読み書きすることができる。 ○教師などの助言があれば、疾病の原因と生体の回復、基本的な病因について、人体の構造と機能と関連していることに気づくことができる。 ○教師などの助言があれば、疾病の原因の発生、生体の回復過程、基本的な病因の機序について、基本的な課題を知ることができる。 ○教師などの助言があれば、看護の職業倫理を踏まえて合理的な思考で討議・議論することができる。	○基礎的・基本的な医学専門用語の知識や技術・考察力を身につけようとしている。 ○学習内容を正確に理解するために学び方を改善しようとする。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 病態生理学「疾病の成り立ちと回復の促進②」（医学書院）
新看護学2「栄養 薬理」医学書院

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	単元名：呼吸のしくみと病態生理 ・肺炎、気胸、結核、肺塞栓、慢性閉塞性肺疾患（COPD） 単元名：消化・吸収のしくみと病態生理 ・胃がん、胃潰瘍、胃炎、腹痛など
2学期	単元名：薬理（外部講師）
3学期	単元名：循環のしくみと病態生理 ・動脈硬化、高血圧、狭心症、心筋梗塞、静脈瘤 単元名：内分泌・代謝のしくみと病態生理 ・糖尿病、バセドウ氏病、クッシング症候群、橋本病 単元名：感覚器のはたらきと病態生理 ・白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、メニエール病、耳鳴り、めまい、難聴、慢性副鼻腔炎

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・（予習）教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・（授業）積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に先生に質問する。あるいは、休み時間・放課後などを利用して質問するなど早めに解決する。
- ・（復習）授業内容の範囲について、教科書を読み返し、辞書を引くことを習慣化する。提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物	・出席状況 ・授業態度 ・グループワークでの取り組み ・課題等の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の学習の基礎となる基本的な知識・技術の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、健康支援としての公衆衛生と社会保障制度に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を養う。

- (1) 健康支援と社会保障制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。(知識及び技術)
- (2) 健康支援と社会保障制度に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健康支援と社会保障制度について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、社会の変化に対応した生活の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○生活者側の視点に立った視点・思考で考えることができる。 ○生活者の状況を踏まえ、よりよい看護の実践をするために必要なものを他学生と意見を言い合うことができる。	○生活者側の視点に立った視点・思考で考え、より実践的に身に着け、よりよい看護の実践を目指して身につけようとしている。
	ステップ	○医療保健福祉に関連する時事を読み、理解することができる。 ○健康支援や社会保障制度に関連する基本的な課題を発見し、生活環境や、生活行動、生活の質の視点から捉え、看護の職業倫理を踏まえて、解決する力を養うことができる。	○地域で生活している人々の健康支援を多面的に捉えて対応する基礎的な知識と技術を身につけようとしている。
	ホップ	○学習した看護の本質を用いて、看護理論家の著書を読むことができる。 ○知識と技術の統合化を図るとともに科学的根拠を踏まえた安全で安楽な援助について考察できる。 ○学習内容を日常生活場面のなかで活用することができる。 ○学習内容を教師等の助言があれば文章で表現することができ、自分の考えを相手に伝えることができる。	○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な看護の知識・技術や考察力を身につけようとしている。 ○学習内容と自分の進路との関連について考え、教師の助言で進路実現に学習に取り組むことができる。 ○課題や提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新看護学 専門基礎 [5] 保健医療福祉のしくみ 看護と法律」 （医学書院）

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	単元名：健康と保健・医療・福祉 単元名：公衆衛生と保健のしくみ
2 学期	単元名：医療のしくみ 単元名：社会保障と社会福祉のしくみ
3 学期	単元名：社会保険法 単元名：福祉・労働・生活・社会基盤に関する法

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・（予習）教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・（授業）積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に先生に質問する。あるいは、休み時間・放課後などを利用して質問するなど早めに解決する。
- ・（復習）授業内容の範囲について、教科書を読み返し、辞書を引くことを習慣化する。提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物	・ 出席状況 ・ 授業態度 ・ グループワークでの取り組み ・ 課題等の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の学習の基礎となる基本的な知識・技術の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、成人看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(知識及び技術)
- (2) 成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

		知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	○機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	ステップ	○健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	○健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	ホップ	○成人の生活・健康の特徴を踏まえた看護について理解することができる。	○成人の生活・健康の特徴に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	○成人の生活・健康の特徴に応じた看護について自ら学び、成人の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組むことができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「系統看護学講座 臨床外科看護総論」医学書院
「系統看護学講座 成人看護学総論」医学書院
副教材 「検査値早わかりガイド」医学芸術社
「よくわかる 周手術期看護」学研メディカル秀潤社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1 学期	単元名：成人と生活 単元名：生活と健康 単元名：成人への看護アプローチの基本	単元名：外科医療の基礎 単元名：周手術期看護の概論
2 学期	単元名：ヘルスプロモーションと看護 単元名：健康をおびやかす要因と看護 単元名：健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	単元名：手術前患者の看護 単元名：手術中患者の看護
3 学期	単元名：慢性病とともに生きる人を支える看護 単元名：障害がある人の生活とリハビリテーション 単元名：人生の最期のときを支える看護	単元名：手術後患者の看護

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・（予習）教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・（授業）積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に先生に質問する。あるいは、休み時間・放課後などを利用して質問するなど早めに解決する。
- ・（復習）授業内容の範囲について、教科書を読み返し、辞書を引くことを習慣化する。提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物	・ 出席状況 ・ 授業態度 ・ グループワークでの取り組み ・ 課題等の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の学習の基礎となる基本的な知識・技術の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、老年看護の実践に必要な資質・能力を養う。

- (1) 老年看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。(知識及び技術)
- (2) 老年看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 老年看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、高齢者の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	○機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的かつ協働的に取り組むことができる。
ステップ	○健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	○健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	○健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
ホップ	○高齢者の生活・健康の特徴を踏まえた看護について理解している。	○高齢者の生活・健康の特徴に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	○高齢者の生活・健康の特徴に応じた看護について自ら学び、成人の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組むことができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書：「系統看護学講座・老年看護学」医学書院

副教材：「検査値早わかりガイド」医学芸術社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	単元名：老いるということ, 老いを生きるということ 単元名：老年看護のなりたち 単元名：高齢者の生活機能を整える看護 単元名：高齢者のリスクアセスメント 単元名：エンドオブライフケア
2 学期	【外部講師】 単元名：精神科疾患のあらわれ方 単元名：精神科での治療
3 学期	単元名：超高齢者社会と社会保障 単元名：生活・療養の場における看護 単元名：健康逸脱からの回復を促す看護（看護過程の展開（事例展開の実際：脳梗塞）を含む） 単元名：治療を必要とする高齢者の看護

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・（予習）教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・（授業）積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に先生に質問する。あるいは、休み時間・放課後などを利用して質問するなど早めに解決する。
- ・（復習）授業内容の範囲について、教科書を読み返し、辞書を引くことを習慣化する。提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 定期考査 ・ 小テスト	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物	・ 出席状況 ・ 授業態度 ・ グループワークでの取り組み ・ 課題等の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の学習の基礎となる基本的な知識・技術の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目 標

看護の見方・考え方を働かせ、臨地において実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・系統的に理解する。

(1) 臨地における看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)

(2) 臨地における看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を探究し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)

(3) 臨地における看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○対象に応じた看護の実際について、看護上の問題を把握するため、「対象の理解」及び「日常生活の援助」の学習活動と併せて、対象を科学的な視点で観察し、収集した情報を総合的に分析して看護の必要性を判断する。	○解決すべき看護上の問題点の明確化を考える。 ○実際の患者情報を扱うため、守秘義務を徹底する実習記録の扱いや保存方法を実行できる。
	ステップ	○対象を全人的に理解するためには、主観的な訴えや思いの傾聴、客観的な全身状態の観察、診療録や看護記録、家族や他の専門職からの情報など、多角的な情報を収集し、分析・評価する必要があることを実践的・体験的な学習を通して考える。 ○患者やスタッフとコミュニケーションを図り、適切な言葉かけを考える。	○対象の理解に関する学習を基礎とし、疾病や治療などによる飲食や行動の制限などを把握した上で、対象の基本的欲求の充足状況や日常生活行動の自立の程度を踏まえ、多様な価値観やライフスタイルに応じた援助の選択と実施について気づく。
	ホップ	○地域社会における病院と特別養護老人ホームの特徴、機能、施設・設備及び患者・入所者などの生活環境や生活状況について、実践的・体験的な学習を通して理解を深める。 ○対象の理解については、疾病・障害や治療方法だけではなく、それらによる身体的・精神的・社会的な影響を捉え、統合的に把握することとその重要性を理解する。	○これらの施設と専門職の活動が地域の人々の健康を支えている現状に気づく。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「系統看護学講座 呼吸器 循環器 消化器 脳神経 内分泌・代謝 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 老年看護学」
医学書院

副教材 「看護過程展開ガイド」照林社, 「患者さんの情報収集ガイドブック」メジカルフレンド社
「看護が見える Vol. 1. 基礎看護技術」「看護が見える Vol. 2 臨床看護技術」
「看護が見える Vol. 3 フィジカルアセスメント」メディックメディア,
「検査値早わかりガイド」照林社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	単元名：基礎看護臨地実習 （１）病院病棟実習 ア 保健医療福祉施設の機能と看護の役割 イ シェドウイング実習を通して対象の理解 ウ 看護におけるコミュニケーション エ 日常生活の援助 オ 看護の展開習する内容
2 学期	単元名：基礎看護臨地実習 （２）老人ホーム ア 保健医療福祉施設の機能と看護の役割 イ 対象の理解 ウ 看護におけるコミュニケーション エ 日常生活の援助 （３）病院病棟実習 ア 保健医療福祉施設の機能と看護の役割 イ 受け持ち患者を通して対象の理解 ウ 看護におけるコミュニケーション エ 日常生活の援助 オ 看護の展開習する内容等

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・病院実習 1 学期 前期 6 日 オリエンテーション 4 日（校内 1 日 病院 3 日）振り返り 0.5 日
2 学期 後期 7 日 オリエンテーション 1 日 振り返り 0.5 日
1 グループ 2 名～4 名, 4 病院に分かれて実習
- ・特別養護老人ホーム実習 1 日 35 名 実習要項に添って行う。
- ・病棟内で実習する時間は、原則として 8 時 30 分から 16 時までとする。施設内での事前の学習準備
事後の学習・片付けを含めて臨地実習時間とし、1 日の実習時間は 8 時間とする。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

評価の 材料	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・事前学習 ・実習日誌 ・看護過程の記録内容	・実習日誌 ・看護過程の記録内容	・出席状況 ・実習態度 ・班員との連携状況 ・実習日誌の提出状況
重みづけ	2	1	1
	看護の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

2年組番	氏名
------	----